

兒童教育に於る私の試み

小 關 源 助

一 十三年間に於ける

私の實驗

教育上の理論に就いても、多少お話し度いと思ふ事柄もありますけれども、今日は、さう云ふ六ケしい議論はヌキにして、私の過去三十年間に試みた實驗談をお話する事にし度いと思ひます。それも私が教育者として學校に於いて、試みた實驗ではなしに、私の家庭で、私自身の子供に就いて實驗した結果であります。勿論、學校で人様の大切な兒童を預つて、それを自分一個の考へから、無暗な實驗をすると云ふやうな事があつてはなりません。私のは、さうではなく、自分の子供に對して、私の思ふやうな教育を施して來た、其の實驗であります。自分の子供が善くならうと、悪くならうと、それは親たる私一個の責任になる譯

で、他に迷惑の及ぶ譯がありませんから、斯う云ふ大膽な試みも出來たのであります。又、其の結果に就いて言つても、總の兒童が、私の得た結果と同一だとは申されず、従つて總の兒童に對して私と同様な教育をおとりなさいと申すのではありませぬ。たい私だけは、從來かう云ふ教育方針を自分の子供にとつて來てその結果が、今斯う云ふ風になつて來ると云ふ事を、ありの儘にお話するに過ぎませぬ。

二 私の教育はスペンサー

主義である

私の一番頭の子供、結り長男は今年十三で、尋常六年であります。此の子供に對して、生後今日迄に、私のとつて來た養育の方針と云ふものは、一般の教育方針よりは、餘程かけ離れたやり方をして來たのであります。云はゞスペンサー主義とも云ふべき方法であります。結り總の事柄を全然子供の自由意志に任せ置いて、些の壓迫も加へ

なかつたのであります。殊に食物に就いては、極端にその主義をとつて來ました。もつと詳しく申すと、子供の欲するだけ與へて置く、自分で厭になつて止すまで與へて置く、食物の撰擇に就いても同様に、子供の好きなものを與へてそれに就いては、決して彼れ此れ申さない。私の子供は澱粉質を非常に好む性質で、殊に豆類は最上の好物であります。四五歳の頃には、一鍋の豆を一度に食つて仕まつた事すらもあつたのです。それでも何等の干渉も與へないで、欲する儘に與へて置いたのであります。是れを此頃の一般の育児法に比すると、寧ろ亂暴と思はれる位に大膽なやり方と云ふべきであります。例へば一日に脂肪質が幾分澱粉質が幾分と云ふやうに、衡で計るやうにして食物を與へて置くやり方とは、大變な相違であります。

そして斯う云ふ大膽な試みを續けて來た結果はどうであるかと申すと、今日迄には何等の害も認め

めないであります。のみならず、第一に意ぢきたなくならないと云ふ事が、最も注意すべき現象の one であります。身長は餘りありませんが、體重に於いてはクラス中で一番多いさうであります。

斯う云ふ亂暴な育て方を置いて、どうしてこれ程に強健を保つて行く事が出来るかと云ふ疑も起きませう。然しそれは、自分の好きな物は最も多く滋養に富んで居る爲めではないでせうか。私自身に就いて見ましても、私は元來菜食主義で、牛乳や卵のやうなものすら平常は用ひませぬ。多くは野菜であります。それは別に理窟のある譯ではないので、言はゞ自分が好きだから喰つて居るのである。そして健康はと云ふと、此の通り肥えて居ります。これを以て見ても、兎に角、自分の好きなものが一番滋養になると申されやうと思ひます。然しこれは總の兒童にとつて、有効だとは決して申しませぬ。私の子供は性來が強壯な體格だから、斯う云ふ結果を見る事が出來たとも云

ひ得るでせうから、他の兒童に對して迄も、同様の方針を施さうとは、決して思はないのです。

三 叱る時は極度に叱る

前に申しましたのは、單に食物に就いての一例でありませんが、その他、行儀、學課の自習等においても、更らに干渉を興へない。子供の意志に任せて置く。勿論學校の受持先生に對しては、十分の尊敬を以て、其の命に従はねばならぬやうに饒けてありますから、若し學校で興へられた宿題等をやらないやうな事があると、それは十分叱つて其の本分を果さしめますが、その他は大體は放任して置く。そして、めつたには叱らない。一年に漸く一二回位叱りませう。然し其の叱るときは極度に叱つて置く。十分親の威嚴を徹し得るまでに叱ります。毎日のやうに小言ばかり續けて居ると云ふ事は、決して子供の爲めにはなるまいと思つて居ます。私は此の方針を言はゞ、教育上の自然

主義とも云ひ得やうとも思ひます。

四

そして、其の結果は愆うかと云ひますと、兎に角、正直であると云ふ事が一番の取得であります。決してウソは云はない。學科に就いて申しましたも、自分の子供を褒めるのは少しくおこがましい次第ですが、決して悪いとは申されないのです。たゞ缺點と思ふ一は、行儀の善くない事であります。世間の傳習的な、所謂行儀作法に就いては、學科で一番劣等なのです。と申して、何も他を害ふやうな悪い行爲をするのではないので、其の點は十分に教育して置きますから毛頭さう云ふ事はありませぬけれども、たゞ行儀が悪いのである。結り一種の野性を帯びた子供に出來上つて居るのであります。

では、何故さう云ふ躰け方をして置くかと云ひますと。私一個の考へとして、子供の操行なり、智識慾なりと云ふものは、相當の年齢に達して、理性が發達して來ると、自ら其の分別がついて來る

ものだと思つたからであります。そして、此れも今日では略成功して居るのである。

四 六年になつて急に操行

が改まつて来た

私は家庭では子供に學科等は決して教へない。教へやうと思へば論無教へる位の閉もあるのです。が、決して教へない。然し其の更りに出来るだけ多くの参考書を興へて置きます。中にはずい分六ヶしい中學程度の参考書もあります。さう云ふ適はしからぬ本までも興へて置く。そうすると子供は自分の學力の進むにつれて、必要な場合には、其の六ヶしい参考書までも讀みます。そして相應に解つて行くのです。(コ、迄語の進みました時に先生は一の書函をお持ちになつて記者にお見せ下さいました。其の中には、中等數學辭典とか、中等地理とか云ふやうな本や、小年雜誌や、教科書や、其他いろ／＼な書籍がつまつて居ました——記者)。尋常六年になつてからは、此の智識慾が一

層盛んになつて來ると共に、一方に操行が非常に改まつて來たのであります。これは注目すべき現象であらうと思ひます。

何故六年になつて、急にさう云ふ變動を來したかと考へますと、一は六年級は尋常科の最上級であるから、其の體面を穢してはならないと云ふ自覺が腫げながらも、子供の胸に起つて來たやうに思はれます。もう一は、私が今年の夏頃の休暇中は講習會や其の他の用事で、田舎へ行つて居りましたので、其の行く前に、其の子供を呼んで、お父さんの不在中はお前が、私に代つて家を治めて行かなければならないが、お前にはそれが能きかどうかと質問致しますと、出來ると答へたのであります。そして其の後は、自ら主人となつて、妹に對して、僕は毎朝家の中を掃除するから、お前はお玄關をお掃除なさい、僕は此の子供をお守りするから、お前は赤ちやんをお守りなさいと云ふやうに、仕事の分擔を自ら確めて、毎朝其れ

を怠らなかつたさうであります。これが一の動機となつて、操行が格段に改まつて來たのであります。詰り子供自らが、自己の責任と自重とを感じて來たからであります。

五 一番効のあつた意見の

仕方

前に申しましたのは身體上の動作に關した一例であります。精神上の方面にも同様の實例が幾らもあるのであります。一體、私の子供は片意地の強い性質で、ある行を止させやうとするのに、無暗に壓迫を加へても、何の効もなく、寧ろ反感を懷くに過ぎないのです。此の子供は、性來非常な無口でして、尋常五年までは、學校で本を讀み上げるやうに命ぜられても、又、唱歌の時間になつても、どうしても聲を出して、讀み上げやうとはせなかつたのでありますと云つて何も讀めなくて讀まないのではなく、性來無口な爲めに、人中に立つて、大きな聲を出すのが、どうも氣がひけ

る爲めのやうに思はれます。私は恚うにかして、此の惡癖を矯め度いと思ひまして、いろ／＼と意見もし、小言も云つて、すい分酷い叱りやうもして見たのですが、どうしても、それが直らなかつたので、今度は受持の先生と話し合つて、今後どうしても讀まなければ學校を止させるが、それでも讀むのが嫌かと申すと、それには少し困つたやうで、それではキツト讀みますと答へたのです。然し學校に行つて讀まして見ると、先張り讀み得ない。そして今度は學校を止させられてもいゝ、どうしても讀まれないからそれも仕方がありません。ぬと云ふので、私もこれには、少し困つたのです。では學問も何も出來なくなるが、それでもよいかと申しますと、學校に出なくても、本さへ買つて戴けば獨りで勉強しますと答へたのであります。私もほど／＼策が盡きて、學校を止さすやうなら勉強も何もさせないで、子僧にやつて仕まうとまで云つて見ましたが、多少これに窮したやうであ

るが、矢張り讀まなかつたのです。私はいろく
と方法を考へた結果、或る日彼れ一人を一室へ呼
びまして、親の威嚴と云ふやうなものは、全くヌ
キにして、恰度友達が話をするやうにして、相談
して見たのです。すると、意外にも一度でそれを
聞き入れて、今度はキツト讀みますと答へたので
す。

その前に、宅に居た書生から聞き覺へた琵琶歌
を獨りで詠つて居たのを聞いた事がありましたか
ら、私は、たい讀みますと云ふだけではいげない
から、今後必ず讀むと云ふ證據に、琵琶歌を一つ
お父さんの前で詠つて御覽なさいと申しますと、
立派にそれを詠つたのです。そして其の後は學校
でも、本も讀めば唱歌も詠ふやうになつたのであ
ります。斯う云ふ事實を以つて見ましても、子供
に意見をするのに、無暗と頭から叱り付けると云
ふやうな事は、寧ろ害こそあれ、何の利益もない
と思ふのであります。

六 子供に壓迫を施しては

ならぬ

これは五歳頃の出來事でありましたが、其の頃
はまた田舎の方に居た時分で、何か私の言付けを
守らなかつたので、酷く叱つて、しまいに押入の
中へ入れてしまつたのです。すると初めは酷く泣
いて、だゝをこねて居ましたが、暫くすると何ん
にも言はないで沈黙つて居るので、どうしたかと
思つて、戸を開けて見ると、矢張りむじくして
居る。どうだ出度くないかと問ふと、出たかない、
何時迄も斯うして居ると云ふので、私もチツト困
つたので、お伯母さんが謝つて呉れる事にしてや
つとそんな狂言で押入から出した事もありました。
此の頃でも、矢張り氣質がぬけないので、氣に
向いた時は、何んでもする、嫌な時はどんな事でも
せないので。此の頃はよく圖書館へ行きしま
ますが朝出たきり夕方になつて、やつと歸つて來
るので、何處へ行つて來たのかと問ひますと、圖

書館で本が面白かつたから、今まで読んで居たと答へるので、お晝御飯はと云ふと、喰はないと云ふ。さう云ふ場合も珍らしくないのであります。

時々金を持たせて使にやる事もあります。するとよく持たせてやつた金を落して、ぼんやり歸つて来る事が度々あるのです。それは道で何かに見られて居るか、考へ込んで居るやうに思はれます。路で私に行き合つても、少しも知らないですれ違ふ時などもよくあります。斯う云ふ特殊な性質を持つて居る子供に對しては、殊に壓迫を施しては

ならないと思ひます。中學にもなれば、少しは硬教育も交へやうと思つて居ます。

要するに、私一個の教育方針としては、飽く迄もスペンサー主義であります。然し他の御子様を教育する上に迄も、これと同様の方針をとらうとは思ひませぬ。私が私自身の子供に、かう云ふ教育を施して来て、それが今日稍成功したやうに思はれる事をお話したに過ぎませぬ。(文責在記者)

動物心理の研究法

文學士 増田 惟茂

八

一 動物にも言語はある

動物は人間のやうに、ものを言はないからと云つて、必ずしも、其の心を外界に表現する機關が缺けて居るものではないので、魚には魚、鳥には鳥に、それ／＼立派に其の機關が具つて居る。たが人間のやうに、發達した言語を持つて居ないから、吾々人間が動物の心理を研究しやうとする爲めには、それに適當した、都合のよい仕掛けや、工夫などを施して、これを觀察する事の必要なのである。言語にしても、總の動物は絶対に言語はないかと云ふと、決してさうではなく、極く初歩な、言語の端緒はある。これを表情語と稱する吾々人間が今日使用して居る言語も、元はと言へば、矢張りこの表情語から發達して來たものである。猿などになると、この表情語が餘程發達して